

資料:次年度に向けて(伊豆市生活交通ネットワーク形成計画の見直し)

1. 計画の見直しについて

○伊豆市では、人口減少や少子高齢化が将来に渡って続き、これにより路線バスの維持が難しくなっており、さらに市内の一部地域では路線バスが運行しておらず、路線バスが運行している地域においても日中は運行が極めて少ないなどの課題を抱えています。

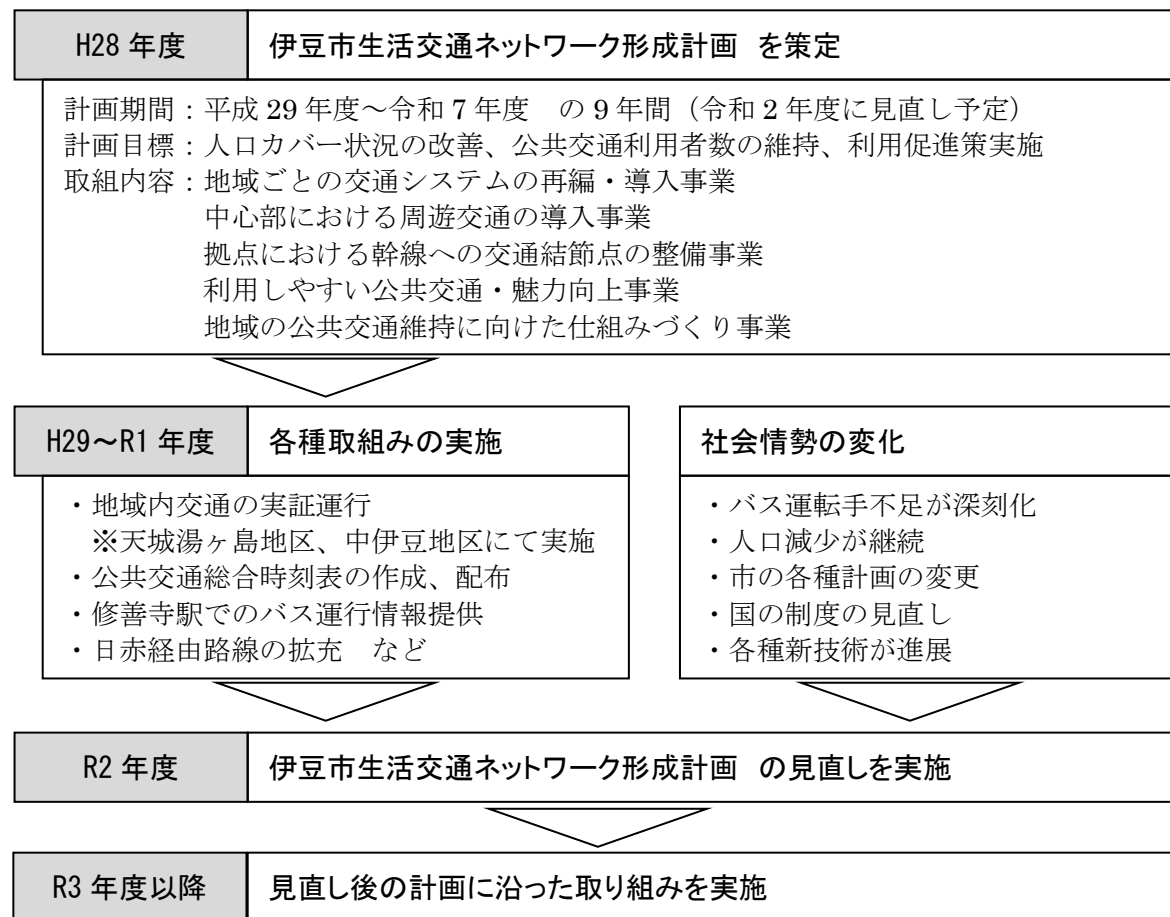
○この状況下、将来に渡り持続可能な地域公共交通を提供するため、2016年度(平成28年度)に市内の公共交通に関する総合的な取組み内容を整理した「伊豆市生活交通ネットワーク形成計画」を策定し、2017年度(平成29年度)から、地域内交通の検討や総合時刻表の作成、修善寺駅での情報提供の充実など、各種取組みを行ってきました。

○伊豆市生活交通ネットワーク形成計画の計画期間は2017年度(平成29年度)から2025年度(令和7年度)までの9年間となっていますが、中間年である2020年度(令和2年度)において、必要に応じた見直しが予定されています。

○計画の策定後、この数年間で自動運転やIT技術の進展、市の将来計画の変更(ガーデンシティ構想、中学校再編の時期変更等)、路線バス運転手の全国的な不足の深刻化、地域公共交通に関する国の制度変更など、本市の地域公共交通を取り巻く状況が大きく変化しています。

○このため、次年度では伊豆市生活交通ネットワーク形成計画の見直しを行い、現状や今後想定される課題、社会情勢の変化に対応した地域公共交通の確保を目指します。

○本資料は、次年度の見直しに向け、計画策定後の取組み状況や社会情勢の変化、計画見直しの方向性を提示し、この場で関係各位の議論を行うための材料となります。

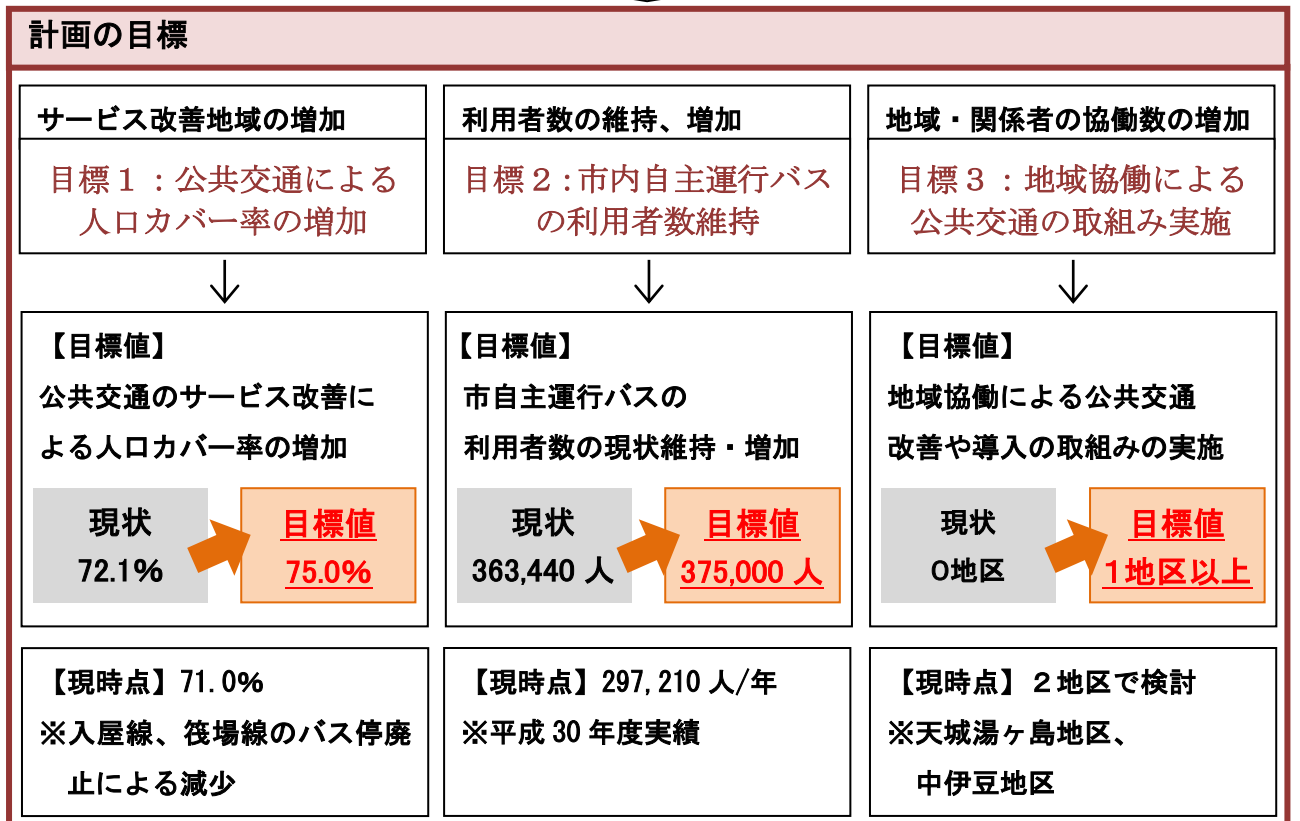
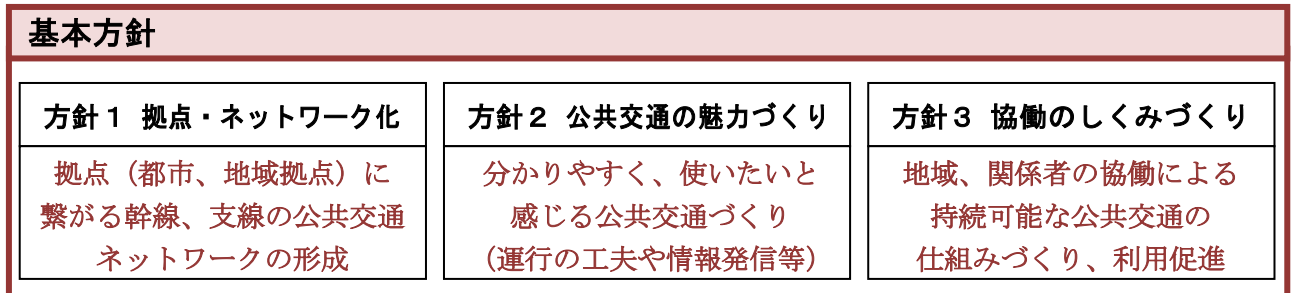
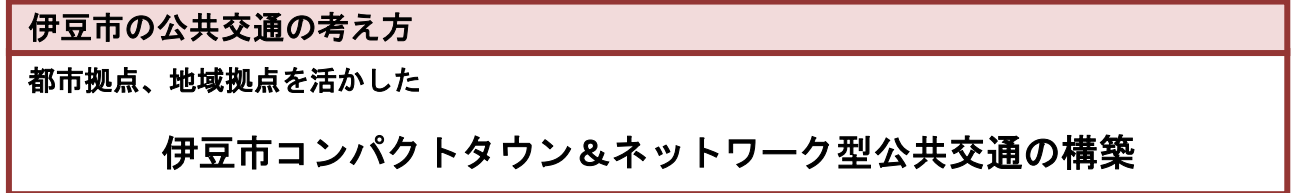


2. 計画の目標、取組みの達成状況

(1) 目標の達成状況

○伊豆市生活交通ネットワーク形成計画では、「都市拠点、地域拠点を活かした伊豆市コンパクトタウン&ネットワーク型公共交通の構築」を基本的な理念とし、以下の基本方針に沿った計画目標を設定しています。

○計画目標のうち、地域における取組状況は2箇所(天城湯ヶ島地区、中伊豆地区)と目標を達成していませんが、人口カバー状況、市自主運行バスの利用者数は目標を下回る状況です。



(2) 取組みの実施状況、課題

		第1期(短期)				第2期(中長期)				実施主体			実施状況	課題	
		H29 2017	H30 2018	H31 2019	H32 2020	H33 2021	H34 2022	H35 2023	H36 2024	H37 2025	住民	事業者			行政
<b>基本方針1</b> 拠点(都市、地域拠点)に繋がる幹線、支線の公共交通ネットワークの形成	<b>事業1</b> 地域ごとの交通システムの再編・導入事業	学校再編に合わせた路線設定および支線再編(短期的再編)				コンパ外&ネットワークへの再編(幹線、支線、拠点の一体再編)(長期的再編)				●	●	●			
	地域内のフィーダー交通※	中伊豆、天城湯ヶ島地区の支線導入(またはサービス向上)事業 試験運行				支線導入 運行継続(必要に応じて見直し) 拠点を中心とした路線再編の検討および実施				●	●	●	→	<天城湯ヶ島地区> ・H29年度、H30年度に予約型乗合タクシーの実証運行を実施 →利用は少なく、地域住民が主体となる交通手段での再検討 <中伊豆地区> ・H30年度、今年度にかけて同様に実証運行を実施	・予約型の交通システムは、予約の抵抗感が大きく、タクシー営業所が地域から遠い場合もあり、ハードルが高い ・天城湯ヶ島地区、中伊豆地区での結果を踏まえた他地区への展開の考え方
	学校再編にあわせた対応※※	土肥小中一貫校への対応				中学校再編への対応 拠点を中心とした路線再編の検討および実施				●	●	●	→	<土肥小中一貫校への対応> ・通学利便性確保に向けた路線バスのルート変更を実施 <中学校再編への対応> ・再編時期がずれこむため、今後検討	・中学校再編が計画期間最終年度あたりにずれ込む予定で、今後、路線バス網の見直しが必須
	幹線路線の利便性向上	幹線路線のダイヤ等利便性向上検討				利便性向上検討 実施				●	●	●	→	・順天堂大学病院までの利便性向上及び自家用車から公共交通への転換を図る為、修善寺駅からの直行便バスの社会実験を実施し、導入を検討	・中伊豆線の減便など、今後路線バスの環境がさらに厳しくなる中、幹線路線維持が必要
	<b>事業2</b> 中心部における周遊交通の導入事業	中心部経路変更の検討(道路整備と中心部経路路線変更検討)				中心部運行の見直し 修善寺の都市拠点の周遊向上策の検討、実施				●	●	●	→	・土肥方面から日赤病院への利便性向上を目的に、H29年度に西海岸線の一部便を日赤経由に変更	・中学校再編に合わせた交通空白地域への対応が求められる
	<b>事業3</b> 拠点における幹線への交通結節点の整備事業	地域内フィーダーの実施にあわせた交通結節点の検討、実施				まちづくりと一体となった拠点整備、交通結節機能の強化				●	●	●	→	・修善寺駅、土肥港フェリーターミナルにおいて路線バス運行情報のデジタルサイネージを設置 ・天城北道路月ヶ瀬 IC 道の駅の交通結節点としての機能を検討	・各地域の拠点バス停の情報提供機能強化、待合環境強化 ・今後のまちづくりとの連携
<b>基本方針2</b> 分かりやすく、使いたいと感じる公共交通づくり(運行の工夫や情報発信等)	<b>事業4</b> 利用しやすい公共交通・魅力向上事業	魅力 ・総合時刻表の作成、配布 ・バスの乗り方教室の開催 わかりやすさ ・路線バスの方面別ナンバリング導入 ・デジタルサイネージの設置 お得感 ・地域で開催するイベントや訪問についていきいきパス、既存のお得なパスを周知 ・商業施設との新しい連携割引を検討 協力意識 ・地域内のフィーダー交通検討にあたり、地域住民と連携した検討を実施									●	●	→	・より一層の利用促進が必要 ・バスに関する情報提供サービスの充実、MaaSの概念など、近年の公共交通を取り巻く環境の変化の活用 ・乗り方教室や周知を通して、公共交通を知ってもらう機会を増やすことが必要	
<b>基本方針3</b> 地域、関係者の協働による持続可能な公共交通の仕組みづくり、利用促進	<b>事業5</b> 地域の公共交通維持に向けた協働の仕組みづくり事業	地域内交通について、地区検討会議を開催し、実証運行の検証、導入の意見交換・検討 バス待ち環境整備事業を地域との協働により実施									●	●	●	→	・市民ひとりひとりが行動しないと、公共交通の維持が困難である点を理解し、積極的な参画への流れを構築することが求められる